

## Gram-negative rod bacteremia after cardiovascular surgery: Clinical features and prognostic factors

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-11-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 田子, さやか メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10470/31559">http://hdl.handle.net/10470/31559</a>

## 主論文の要旨

Gram-negative rod bacteremia after cardiovascular surgery: Clinical features and prognostic factors (心臓血管手術後のグラム陰性桿菌による菌血症に関する研究)

東京女子医科大学感染症科

(指導：菊池 賢教授)

田子さやか

J Microbiol Immunol Infect. published online August 28, 2015,  
10.1016/j.jmii.2015.07.008

今回我々は2004年4月から2013年3月に東京女子医科大学病院において、心臓血管手術後100日以内にグラム陰性桿菌菌血症を発症した成人を対象とし、心臓血管手術後のグラム陰性桿菌菌血症の臨床状況、予後不良因子などを診療録を用いて後方視的に調査した。心臓血管手術を受けた2,017人中78人がグラム陰性桿菌菌血症を発症した。グラム陰性桿菌は *Klebsiella*、*Pseudomonas aeruginosa*、*Enterobacte* が多かった。手術は人工血管置換術が最も多かった(44.9%)。周術期の予防的抗菌薬はアンピシリン/スルバクタム(76.9%)、バンコマイシン(12.8%)であった。90日死亡率は21.8%、Acute Physiology and Chronic Health Evaluation (APACHE) II スコアの平均値は15.6(3-39)であった。多変量解析では、*P. aeruginosa* 菌血症 (odds ratio [OR] 175)、APACHE II スコア  $\geq 25$  (OR 76.2)、予防的抗菌薬バンコマイシン (OR 45.4) が心臓血管手術後のグラム陰性桿菌菌血症による死亡の有意な予後不良因子であった。心臓血管手術後

に状態が不安定な患者に菌血症が疑われる場合は、初期治療として *P.*

*aeruginosa* を含むグラム陰性桿菌をカバーする抗菌薬を選択することを検討すべきである。